第12回ファカルティ・ディベロップメント報告書

2018 年 12 月 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 教務委員会

#### 1. 開催概要

第12回の京都大学医学研究科 社会健康医学系専攻 ファカルティ・ディベロップメントは、「大学院生教育の使用言語について」のテーマを元に教員、招聘講師の神崎先生、そして自発的に参加してもらった社会健康医学系の学生を交えて、日本語を十分に解さない留学生が増えた昨今の状況の元、大学院教育の使用言語をどのようにすべきかについて話し合われた。

まず、「農学研究科での現状」と題し、神崎 護 先生(農学研究科 森林科学専攻 森林・ 人間関係学分野 教授)による特別講演があった。実際に多数の留学生が在籍する農学 研究科で、新たに設置された英語のコースだけで単位を取得できるようにしている等の 試みが紹介された。続いて、Techasrivichien 助教より、SPH 留学生の状況に関するア ンケート結果の報告があり、SPH における教育に対する留学生の意見が紹介された。

そののち、希望のあった留学生数名から、SPH での日本語のみでの授業に対する意見、問題点などを直接教員に話してもらった。同時に、日本語が母語である学生数名も加わり、日本語を母語とする学生の立場での教育提供の言語について意見を聴取した。これらの学生、ならびに教員で活発な質疑・討論が行われ、外国人学生・日本語を母語とする学生双方へどのような配慮を行うことが理想的か、今後とるべき方略などの提案がなされ、2018年度のファカルティ・ディベロップメントは終了となった。

#### 2. 出席者(敬称略)

佐藤・土居・大宮(医療統計学)、福原・山本・小川(医療疫学)、川上・竹内・堀部・吉田・井出・松林・関(薬剤疫学)、田原(ゲノム情報疫学)、今中(医療経済学)、和田・川崎(医療倫理学・遺伝医療学)、中山・高橋(健康情報学)、原田(環境衛生学)、岩隈(医学コミュニケーション学)、渡辺(健康増進・行動学)、木原・Patou・Jar(社会疫学)、里村・岩永(健康政策・国際保健学)

計 27 名

#### 3. 資料

- ・プログラム (教務委員会 作成)
- ・神崎護(農学研究科 教授) 「農学研究科での留学生と日本人学生の共修の仕組みと現 状」
- · Teeranee Techasrivichien (社会疫学分野 特定助教) 「The Current Situation of International Students of SPH: Result from Short Survey」

# 第12回ファカルティ・ディベロップメント 大学院生教育の使用言語について

場所:医学部構内 G棟2階セミナー室 A

日時: 平成30年11月16日(金) 9:00-11:30

Schedules of the 12th faculty development

at Seminar room A, building G 9:00-11:30, 16th Nov 2018

#### 9:00-9:05

- 1. はじめに 教務委員会委員長 福原 俊一 教授
- 1. Opening remarks (Prof. Fukuhara)

### 9:05-10:05 (質疑応答の時間も含む)

- 特別講演:農学研究科での現状 神崎 護 先生(農学研究科 森林科学専攻 森林・人間関係学分野 教授)
- 2. Lecture: the experience when teaching Japanese and foreign students in the graduate school of agriculture (Prof. Kanzaki)

#### 10:05-10:20

- 3. SPH 留学生の状況について(アンケート結果) Jar 助教
- 3. The current situations of foreign students in the SPH: results from the short survey (Dr. Techasrivichien)

#### (10:20-10:30 休憩 Break)

#### 10:30-11:00

- 4. SPH 学生(日本人学生、外国人学生)の報告(進行: Jar 助教・福原教授・山本准教授)
- 4. Report from foreign students and Japanese students
  - Christina El-saaid さん (from Yemen, former MPH student, currently PhD candidate and Research Assistant)
  - Zuhal Sulaiman Haares さん (from Afghanistan, former MPH student, currently Research student)
  - Yang Chih-Chi さん (from Taiwan, currently MPH student)
  - Takahiro Agari さん (double-degree program, currently MPH student)
  - Yuko Tanaka さん (currently MPH student)
  - Yohei Okada さん (currently MPH student)

#### 11:00-11:25

- 5. 総合討論とまとめ:講義の使用言語や 資料 ほか 外国人学生への配慮・方略等
- 5. Discussion (Language of the lecture, strategy to provide foreign students with better education, etc.)

#### 11:25-11:30

- 6. おわりに 社会健康医学系 専攻長 中山 健夫教授
- 6. Closing remarks (Prof. Nakayama)



#### 農学研究科

2

4

QS世界大学ランキング農林系でアジア3位

7専攻はいずれも「生命・食料・環境」を軸に持続的な生物資源生産と環境保全に関する教育研究

7専攻93研究室すべてが、英語特別コースに対応

農を取り巻く課題とニーズの多様化に対応できる,特色ある専攻・研究室を保持

1



田学生の受け入れの仕組み

国費大使館推薦

農学特別コース(G30 Special Course in Agricultural Sciences)H22年度優先配置プログラム (ASEANはミャンマー, ラオス, カンボシア) H26-H30年度
H28には優先配置からは 13名、それ以外のインドネシア, タイ, マレーシアから 46名
私費留学生 などがこのコースを利用

私費外国人留学生特別選抜 (日本語能力必要, 中国, 韓国, 台湾など多い)
修士課程グブルディグリープログラム
高・エネ・保健 1 体別の文字領別 | 阿学を18日、上日アセアン及が向人材育成プログラムの構築
研究学生に 16分でライト制度によるな形成態に関係・仕会・バーグ・命託等別
H26~29年度 16名受入, 4名派遣 (京大合計125名受入, 8名派遣)

AUNシングルディグリープログラム
4名受入 (京大合計11名)
正規生以外の受け入れ
短期交流学生や特別研究学生などとして受入れ
研究指導 → 共同指導や学位審査委員担当

3

・大学院での英語使用科目数

・大学院向け開講科目
特論(座学) 完全英語科目 日本人のみでも英語
留学生受講時に英語化
留学生受講時も日本語

演習・実験 すべて英語で指導可
ただし英語化の程度は研究室で様々
常時英語
必要に応じて日本語
必要に応じて英語
日本語

特論(座学の英語化)

英語対応: 留学生の履修者があれば, 英語で講義を行う可能性ある科目

英語科目:留学生の有無にかかわらず英語で講義を行う

| 専攻      | 科目数 | 英語対応 | 英語科目     |
|---------|-----|------|----------|
| 農学      | 21  | 3    | 0        |
| 森林科学    | 44  | 10   | 2        |
| 応用生命科学  | 30  | 2    | 3(留学生のみ) |
| 応用生物科学  | 43  | 8    | 0        |
| 地域環境科学  | 32  | 23   | 0        |
| 生物資源経済学 | 56  | 15   | 0        |
| 食品生物科学  | 12  | 2    | 0        |
| 研究科共通   | 12  | 0    | 11       |

#### 完全英語化科目の履修状況

- 1. 英語表現に関する演習的科目 a. 外国人教員によるもの
  - b. 日本人教員によるもの
- 2. 留学生をおもに対象に設置した英語科目 日本人, 外国人教員が担当
- 3. 招へい外国人教員による特別講義

#### 英語科目の日本人学生は履修状況の一例

• 英語科目を日本人学生は履修するのか?

|     | 2016年~2018年の英語開講科          | 目の単位履 | 修者数(合詞 | †)  |
|-----|----------------------------|-------|--------|-----|
| タイプ | 科目名                        | 留学生   | 日本人    | 総計  |
| 1a  | Scientific Communication 1 | 54    | 26     | 80  |
| 1a  | Scientific Communication 2 | 38    | 6      | 44  |
| 2   | Forest Science 1           | 12    | 11     | 23  |
| 2   | Wood Science 1             | 2     | 1      | 3   |
| 2   | Sustainable Agriculture    | 41    | 32     | 73  |
| 2   | 人間の安全保障特論                  | 11    | 13     | 24  |
| 2   | 東南アジア地域論                   | 10    | 12     | 22  |
| 2   | 日本の農業と環境                   | 28    | 7      | 35  |
|     | 合計                         | 196   | 108    | 304 |

タイプ1.2は前百の区分

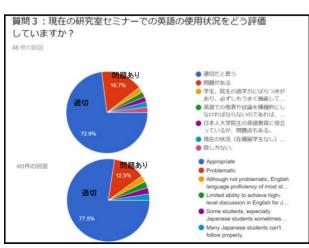
8

10

7

アンケート調査結果 221名 博士 234名 677名 学部 4 回 329名 国際交流委員などを通じて全構成員への配布を依頼 修了生へのアナウンスも依頼 質問1:教員,学部生,院生を選択してください. 完全匿名アンケート 日本人 48名 回答者数 教員 28名 博士課程 5名 修士課程 12名 Question 1: Are you faculty, undergraduate stud 学部4回 2名 外国人 40名 回答者数 教員 5名 博士課程 15名 修十課程 16名 修了生 4夕

質問2:研究室のセミナーにおける英語使用は? 英語は使用していない ● 留学生発表などで必要な場合のみ 使用している 革語主 ● 基本的に英語使用で、場合により 日本語を使用 英語のみ使用 ・「基本的に英語使用で、場合により日本語を使用」だが、実質的... ・発表資料は英語で、発表そのものは日本語。質疑応答は場合によ... --部 40件の回答 Not use English Principally in English 英語主 革語のみ Only in English Japaneses and English 使用せず 一部



質問3-1:セミナーの英語使用で改善すべき点. 16 件の回答

英語と内容をチェックして<u>指導できる教員</u>がいない場合は、教育効果は望め ないと思う。

教員・学生の英語力向上

•英語の理解が不十分な学生に対する配慮が必要

•学生によっては、writing English能力が低く、誤字脱字も多いことがある。 教員が資料の英語をすべてチェックして修正する時間の取れないことが課題で ある。

•やる気のある学生とそうでない<u>学生の差が広がる傾向</u>があるので、やはり日 本語による教育の機会は必要と感じる。

•英語セミナーに学部修士の日本人学生を必須としていないため、それらの学 生は参加していない。また、参加していても議論に入らない学生がほとんどで

•日本人学生が発表するときは、日本語で話し合わないと深い話ができない。 話を誤解する可能性がある。

#### 質問3-1:セミナーの英語使用で改善すべき点、16件の回答

・日本の<u>文科系研究</u>を行う人が英語で報告するのはしんどい。また、学部生に 英語でやらせるのも酷だと感じている。自主ゼミで対応したいが、自分もそこ まで労力が避けず、厳しい。(これは生態学系・工学系・社会科学系の学生が 混ざっている本研究室の特徴とも関係している)

- ・教員の英語が関西訛りであること。
- •研究指導は、両言語で対応できるようにすべき
- •1年生と2年生に<u>義務的な英語科目は良い選択</u>です。英語能力の改善は時間が 必要
- 研究職志望の学生については練習機会を作るという意味で英語発表(少なくともパワーポイントや配布資料)とすべきではないかと思う。
- •英語が堪能な側が、もっと<u>不得意な聴き手に配慮</u>すべきであろう
- ・日本人教員・日本人学生が<u>留学生の日本語の力をよく理解していない</u>。多くの留学生は会話に支障がなくとも、学術的な議論はできない。例外的によくできる学生がいることを英語化をしない理由とするのはおかしい。
- •研究室セミナーは、<u>自由な形式で行う</u>ことができるため、特に問題は感じない。

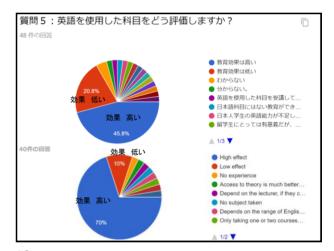
- Question 3-1: Please write anything your idea to improve your seminar from the viewpoint of language usage.24 件の回答
- · at the very least, slides should be in English
- Compulsory english using in all conditions
- Although the presentation is in japanese, please provide the PPT slide in english version, or at least any english version appears
- It's really hard for Japanese students/teachers to speak/discuss in English during seminar so it may be better to organize joint-English seminar from several labs for better understanding and learning especially for international students
- Please use English language, at least in QnA section.
- encourage all students including Japanese students to make their presentations in English
- Some of the Japanese students will have their presentation in Japanese, sometimes if the international students have the similar research topics would like to listen their presentation. Maybe it's better to let them prepare English handouts to everyone.
- All the students should communicate only in English during seminars.
- PowerPoint should be prepared in English but presentation could be made in English or Japanese.
- Perhaps encourage more Japanese students to ask questions in English too.

14

13

#### ・ Question 3-1: つづき

- For internationalization, I think it is a good Idea to have laboratory seminar in English. It will greatly improve the english language skill among the students.
- Students should be encouraged to speak more confidently regardless of their level of English proficiency.
- English usage is very important for better understanding particularly for international students so that they
  can get benefits and make use of it.
- Separate seminars (every 1 or 2 weeks) in English with high requirement for preparation is common, but perhaps 50% (handout in English, or discussion in English, other in Japanese) would help to increase general level of English use.
- I think the best approach is for the foreign students to learn a little Japanese.
- It's all okay. Our Sensei has been encouraging the usage of English during the seminar
- Sometimes, several seminar is held in Japanese when japanese student who lack of confident in English as presenter. Meanwhile, international students is not mandatory to join it. It is no problem for me. However, will be better if all Japanese students must use english in presentation for their English improvement
- introduce English lessons
- Dont be shy
- It will be better for Japanese student by preparing both Japanese and English in power-point
- I understood that sometime Japanese students prefer to present in Japanese to make clearly discussion
- During seminar all the conversations may be made in English.
- The current usage is satisfactory since both international and Japanese students present in English



15 16

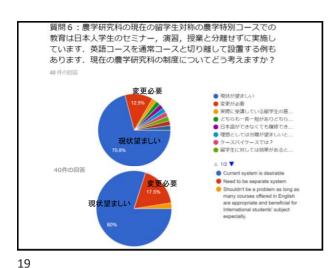
#### 質問 5 - 1:英語使用の科目について改善すべき点. 16 件の回答から抽出

- •科目の理解度が落ちる可能性があるため、工夫が必要である。
- •教員の英語力が問題
- 言語はそれ自身が一種の論理体系なので、できる人は両方できるし、できない人は両方できないのでは?
- 英語というツールを身につけさせるのか、英語を通じて論理体系を身に着けさせるのか、それぞれにやり方があるのか、同じで良いのか?
- ・いかに日本人学生に興味を持たせるかが課題。資料は英語、日本語の併記でも良いと思う。
- •英語を不得意と考えている学生は履修していない

・4回生やM1の日本人対象にグループゼミ、留学生対象にセミナーの補足説明を始めています。双方の教育が外国語能力の壁によって、棄損されることの無いように、このような何らかの努力が必要だとは感じています。

Question 5-1: If you have any opinion about the improvement of English subjects, please feel free to fill in.14 件の回答

- Hire more foreign teachers
- 1. Students should be more confident in using English (this can be encouraged by fellow students and professors).
   2. Writing assignments and oral presentations should be mandatory.
- A higher amount of English options is still necessary to make GSA a viable choice for international students. Currently it proceeds with lots of improvisation.
- Need more courses in English.
- Keep improving it..it has been all great. From an English native speaking lecturers to fluent English speaking lecturers.
- Supporting material in english and more often guest lecture in english
- It would be better if there are many classes provided in English.
- Number of courses in English may be increased.
- So far so good, the more courses are offered in English the more accustomed all students will be to the
- There are some courses about English presentation for students to take in that I think is good for us to practice more before our seminar, also add more chances to talk with people of native English speakers.
- Plactice into evenue our seriminal, also and more Japanese strudents should take courses offered in English. Japanese Professors may use English at the postgraduate levels.
- Open english class without credits for practicing presentation with english
- More discussion-based classes where the professors can encourage students to also ask questions or comment to improve student confidence and communication between the lecturer and the students.



質問6-1:英語コースについて改善すべきと考える点. 12 件の回答

留学生のみが受講可能とし、担当の専任教員を配置すべきである。

•日本に留学してきたのであれば、日本語で学ぶべきである。それが嫌なら日

本に留学してくるべきではない。 •教える側の工夫・努力が必要

・自戒をこめて、担当教員の努力と工夫。

•受講していないから何とも言えない

•英語コースの実態をあまりしりませんので、よくわかりません。

•英語で開講される授業を増やす必要がある

•大学院生については現状で良い。

改善案ではないが、日本人学生の視点からの英語コースを作る必要がある。 それは英会話教室の延長ではなく、学問としてしっかり勉強できる環境を作る とに特化し、それが研究者を増やすことにつながればと思う。

•英語で科目数を増やします

•基本的には、研究科全体で英語科目を増やす努力が必要。留学生の取りたく なる科目が、自身の研究室の講義以外に少ないのでは?

•専攻によって、英語講義の開設程度が異なる。できるだけ、全教員が参加す ることが望ましい。

20

23

Question 6-1: Fill in the points you think to be improved for the Special Course in Agricultural Science.18 件の回答

- Adding interdisciplinary courses or minor degrees in other fields
- Please, add more class or course or seminar in english
- Everyday we can have a English forum in campass. the forum will be held to talk about sciece in English
- Not familiar with this course using this name?
- More courses in English required
- I don't meet any problems since there are some Courses in English.
- There should be seminar in traditional class mode about Research ethics and several other subject that only provided in the form of online course
- There's still some points that Japanese language is mandatory so we still need a lot of support in translation (ex. Registration document
- In case in my division, the subject which using English is so limited.
- In order to support the students having more choices, I wish a number of English classes in this special course will be increased continuously.
- Add more Special Courses is better.
- Special course should be a separate course.
- More smaller class
- In my opinion the course is quite effective since international students language need are well catered for.
- Also, some of the already graduated PhD students can be enrolled as lecturers since they already understand the GSA and can also give lectures.

ASEANとの短期交流プログラム 国際交流科目・世界展開力強化事業 「変容する東南アジアー環境・生業・社会」 カセサート大学農学系6学部との双方向2週間 カセサート大子標子※5字部との火方向2週間 農業・環境に関する見学とグループワーク+文化 2008年からの9年間で 派遣 135名 受入 111名 京大から農工理、総人法、文、医など参加 ワイルド&ワイズ共学教育受入れプログラム 「環境イノベータ創出京都研修プログラム」 ボゴール農業大学 (IPB) から学部生15名受入 京都大学アムジェン・スカラーズ・プログラム 2 研究室が参加

21

#### ASEAN地域での交流シンポジウム

#### 世界展開力強化事業

「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築」 国際シンポジウム(エネルギー分野,公衆衛生分野との共同)

2014年6月 インドネシア, バンドン工科大学 2015年11月 マレーシア, マラヤ大学 2017年1月 京都大学



農学研究科とタイ・カセサート大学 共催シンポジウム 「KU-KUGSA Symposium on "Food, Environment and Life for the next generation"」 2015年12月 カセサート大学にて 100名以上の参加 京大より28名 2016年12月 京都大学 70名以上の参加 カセサートより25名

共同研究成果, 新たなカウターパート発見 留学説明会



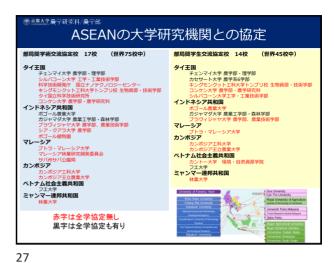
## ASEANへの学生渡航

#### H28(2016)年度の学生の渡航記録(大学院生)

|                | 全件数 | ASEAN<br>(件数) | 比率<br>(%) |
|----------------|-----|---------------|-----------|
| 全渡航数           | 257 | 65            | 25.3      |
| 調査研究           | 132 | 59            | 44.7      |
| 留学<br>インターンシップ | 18  | 6             | 33.3      |

研究フィールドと留学先としてのASEANの高い比率









28 29

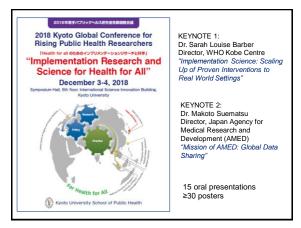
ASEANとの連携の重要性と農学研究科

ASEANの生物資源と経済成長
日本にとって生命・食料・環境の分野で重要なパートナー

ASEANの多様性とモザイク性
宗教、政治システム、経済制度、発展段階

今後の取り組み
イコールパートナーとしての研究・技術開発での協力関係の拡大
「食料安全保障・環境保全・持続的な開発への貢献
文化、習慣、技術の違いを乗り越えて緊密な協力を担っていける日-アセアン双方の人材育成





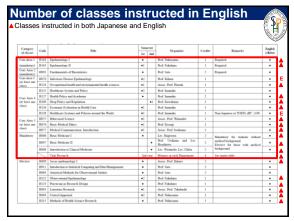


- · Established in 2000
- The first and the largest SPH in Japan
  - Kyushu University (4 departments, MPH only, 2001-) - University of Tokyo (18 departments, MPH only, 2007-)
  - Teikyo University (7 departments, MPH 2011-, and DrPH 2014-)
- · Offers the richest array of courses in Public Health
  - 19 departments

3

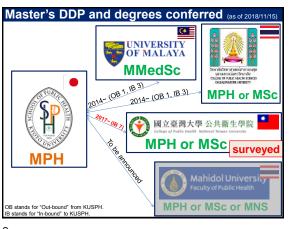
- 4 special courses (MPH 1-year, MCR, GCC, CBC)
- 5 SPECIAI Programs (Management of Technology and Intellectual Property, Young Leader Program for Healthcare Management, Industrial Toxicologist Program, Professional Blostatistician Program,

#### Number of students (as of April 2017) Course Year 1 Year 2 Year 3 Year 4 Total MPH 37 (9) 35 (2) 72 (11) 20 (2) DrPH 15 (2) 13 (2) 48 (6) PhD 10 (3) 7 (2) 7 (1) 28 (5) Research 34 (1) students ()=Number of foreign students





5 8



Short survey among Double Degree Program (DDP) students

Anonymous online questionnaire

Conducted
In June-July 2018
Among 6 DDP students from NTU only

Consisted of
main sections
Overall satisfaction (6 questions)
Classes (6 questions)

3. Research (3 questions)

10

9

Survey: First section

OVERALL SATISFACTION

(6 questions)

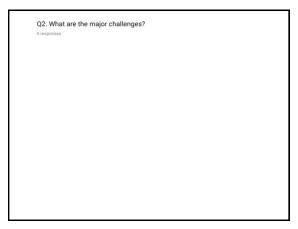
Q1. So far, how satisfied are you with your stay at Kyoto University School of Public Health (KUSPH)?

6 responses

3
2
1
0 (0%)
Not at all

7 (16.7%)
Very satisfied

11 12



Q3. What are your strategies to cope with the above challenge(s)?

6 responses

choose the English classes as possible(but still not enough)

Try my best to learn the knowledge by myself. For example, searching and reading the reference paper that the professor gave.

I will seek more information from the internet base on the keywords on the slides.

For research problem, it's mostly caused by the three following. Laziness and classes still unsolved, mentally-related problems by talking with my friends and family.

1. Just spend time on research project and class assignment, but it's quite tired, and we're worried about if we can not do well.

2. Try to listen carefully, and ask classmates, but it's not easy to get the answer and that might be a problem for them.

ask for help from colleagues and tutor

13 14

Q4. How could we help you to solve that (those) problem(s)?

6 responses

increase the amounts of English classes, otherwise ask a Japanese buddy to help us with briefly explain the contents of classes.

Giving us an alternative ways to get the courses will taught in Japanese these credits, for example, writing report with some relative topics. Or give us English handouts.

It would be great if KIJ could provide more course in English.

1 guess it's hard for you to relieve our course loading, but it'll be good if so. For research, I think we should overcome it ourselves.

1. I think now it's Ok.

2. I think this problem is difficult to solve, so i have no idea.

provide more English learning materials or handouts

Q5. On the other hand, what do you find good and helpful?

6 responses

Actually, everything except the classes here is not bad after adaption. Specifically, Jar and Mora gave us a lot of help, I appreciated it very much.

Prof. I reakuma provides us much help. We can not only enjoy but also learn a lot of knowledge in her course. My advisor also give much help for me, he will take care of courses that I take, and how much I can learn in those courses.

It is vary nice that most of the teachers provide English material and explain some important concepts in English for us. Our advisors are brilliant, colleagues and other senior master students are also kindly provide many kinds of help and concern.

All the people here, life quality

Most senseis are very nice, and some classmates even help us during the lectures. For me, I found that I have learned a lot from my advisor and my department, they give me so many supports.

my Japanese tutor

15 16

Q6. How can that be improved?

6 responses

If there is a Japanese buddy to help us with some information and regulations of the university and life staffs, it will be better. Most of the time I have to find the information by myself but not all the information has the English version.

Prof. I levakuma taught us in English, not briefly teaching in English and she try her best to use English and "Chinese character to display Japanese" in her handouts. Also, she will assign some classmates can talk English in each group, so we can discuss in English with classmates and join whole courses every week.

I think it's already well done

No, so far.

I think that's enough.

I think he is helpful enough.

Questions on
"CLASSES"
(6 questions)

17 18

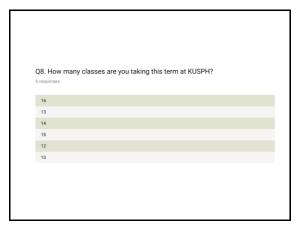
Q7. Are the classes in the MPH curriculum beneficial for your learning to develop skills and knowledge in public health?

6 responses

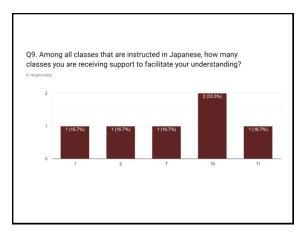
3
2
2 (283.3%)

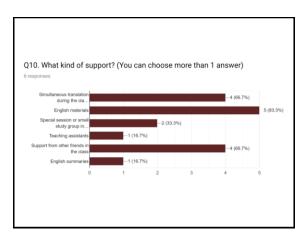
Not at all

Yes, very beneficial



19 20





Q11. Please suggest other ways or solutions that we could help international students to understand the classes better.

6 responses

Teaching assistants that can translate a little after classes will be helpful(or course if he/she can translate during the class is perfect.

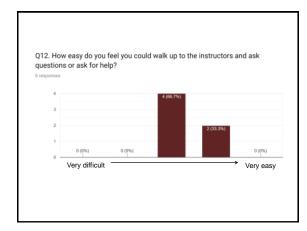
Sending the handout before the course start.

provide English textbook information for self-learning

No idea so far.

Actually! think simultaneous translation is sometimes disturbed. Both English materials and teacher assistant are efficient.

teach in English



23 24

Questions on
"RESEARCH"
(3 questions)

Q14. In terms of research, how supportive is your department? It could be research resources in your department, your peers in the department, etc.

6 responses

Everything there is so far so good.

My advisor can rapidly discuss with me about my ideas in my research.

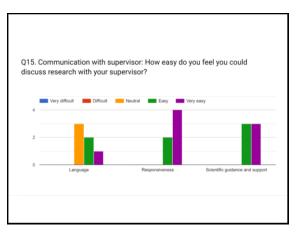
our department is very supportive in every aspect that I can image

My advisor is very supportive, and I haven't had too much interaction with with other members yet.

My department helps me a lot, senseis let me ask questions, and sometimes peers in the department also care about me.

My supervisor helped me a lot.

25 27



Q16. Anything else you would like to suggest? We are all ears. Please feel free to let us know.

4 responses

All things are mentioned beforehand. Thanks a lot

thank you for all the help for international students. I think what you provide right now it's already thoughtful

Time is tight. Hope everything goes fine.

No, thanks for planning this program.

28 29

# Way forward?

**ADDITIONAL SLIDES** 

31

30

#### International activities

- UNAIDS Collaborating Centre (2006~)
- INSERM Research Unit for Genetics of Multifactorial Diseases (2007~)
- Executive member of M8 Alliance
  - WHS Regional Meeting (Kyoto, April 2015)
- DDP with Chulalongkorn Univ. and Univ. of Malaya (since 2014)
- · Super Global University Project (since 2015)
  - Translation of English materials for classes
  - DDP / JDP
  - Short courses (LSHTM)
  - Super Global Course
  - Annual "Kyoto Global Conference for Rising Public Health Researchers" (2015~)

#### What is Double Degree Program (DDP)?

- Two master's degrees within a period of two years (or more)
- University wide, initially supported by "The ASEAN University Network (AUN) – Kyoto University (KU) Student Mobility Program toward Human Security Development"
- Started in KUSPH in 2014

32 33

5



he .

#### emerits of DDP



- · Intensive workload within short timeframe;
  - 2 sets of coursework
     (10 credits transferable to KUSPH)
  - 2 different theses

| 報名   | デリア   マリ大学   マリ大学   マリア   マリ大学   マリア   アリア   マリア   | 당당 707 10-07 19-17 19- |
|--|--|--|
| ルルギーは登載者 アジブ マニー/ア マラヤ大学<br>神学末日 アジブ イントネファ バントン工 大小学 フ<br>神学末日 アジブ イントネファ バントン工 大小学 フ<br>神学末日 アジブ イントネンア ガジャマダ大学 フ<br>神学末日 アジブ (2) イ カリー・大学 4<br>東西北大学 アジア (2) 国立台東大学 2<br>10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | アジア   94   | ルギー計算要目 777 10-177 25 |
| ルルギーは登載者 アジブ マニー/ア マラヤ大学<br>神学末日 アジブ イントネファ バントン工 大小学 フ<br>神学末日 アジブ イントネファ バントン工 大小学 フ<br>神学末日 アジブ イントネンア ガジャマダ大学 フ<br>神学末日 アジブ (2) イ カリー・大学 4<br>東西北大学 アジア (2) 国立台東大学 2<br>10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | アジア   マー・シア   マラヤ大学   2   アジア マー・シストラ   マラヤ大学   アジア マー・ストラフ   アジア マー・ストラフ   アジア ター・カン・ストラー   イ 2   アジア ター・カン・大学   4   2   アジア ター・カン・ストラー   アジア ター・ストラー   アン・ストラー   アン・ストラー | ルギー計算要目 777 10-177 25 |
| 学校支払 アジア (ペドネシア / ペゲン工 私大学 ) 中部支払 アジア (ペドネンア ) 中部支払 アジア (ペドネンア ) 中部支払 アジア (メイネンア ) 中部支払 アジア (メイネンア ) トルイー・哲学等数 アジフ・ダイ ネーカンスン・大学 2  | アジア 〈ウドネシア / C・ドンエ科大学 7 アジア 〈ウドネシア / C・ドンエ科大学 7 アジア 〈ウドネシア / グラマダ大学 7 アジア 〈ウドカ・ナス学 4 2 アジア 〈タース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オ  | 製製料 777 からネシア からえば大学 1<br>1 から 1 から  |
| 学報資料 アジア インドルテア ガジャマダ大学 7 2<br>学報資料 アジア タイ カセサー大大学 4 2<br>管理大学院 アジア 台湾 国立台湾大学 2<br>ルドー・科学研究 アジア タイ サックロンロン大学 2   | アジア インドネシア ガジャマダ大学 7 2<br>アジア タイ カサート大学 4 2<br>アジア 台湾 国立台湾大学 2 7<br>アジア タイ キュラロンコン大学 2   | 要数数 707  |
| 学観覧員 アジア タイ カセサート大学 4 2<br>開発技大学院 アジア 台湾 国立台湾大学 2<br>Rルギー科学研究科 アジア タイ チュラロンコン大学 2  | アジア タイ   カセサート大学 4 2   アジア 台湾   国立台湾大学 2   アジア タイ   チュラロンコン大学 2   2  | 接続 アジア 9イ カセサー大学 4 2 世界大学 7ファ 64 第 面前点大学 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1   |
| 密管理大学院   | アジア 台湾 国立台湾大学 2<br>アジア タイ チュラロンコン大学 2  | 智分大学 アジア (2英 新女は男大学 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1  |
| キルギー科学研究科 アジア タイ チュラロンコン大学 2 まき様を受す アジア インドネシア ボデール事業大学  | アジア タイ チュラロンコン大学 2<br>アジア インドネシア ボゴール農業大学  | 選抜字章 アジア インドネシア ボニールル書き大字<br>選抜字章 アジア 9イ でにドン大字<br>研究科 アジア インドネシア ボニール書き大字<br>ルデー科学研究科 改術 コランス ポニール書き大字  |
| 申請信受令 アジア アボネシア ボデール暴業主要   | アジア インドネシア ボゴール農業大学  | 環境学業 アジア インドネシア ボゴール最重大学<br>環境学業 アジア 94 でにドン大学<br>研究的 アジア 4ンドネシア ボゴール最重大学<br>ルギー科学研究科 200 200 200 200 200 200 200 200 200 20   |
|  |  | 研究科 アジア インドネシア ボゴール農業大学 ルギー科学研究科 欧州 フランス ポルドー大学  |
| 球環境学堂 アジア タイ マヒドン大学  |  | ルギー科学研究科 欧州 フランス ポルドー大学  |
| 学研究科 アジア インドネシア ボゴール農業大学   | アジア インドネシア ボゴール農業大学  | ルギー科学研究科 欧州 フランス ポルドー大学 0 19 0 0 8 0   |
| トルギー科学研究科 欧州 フランス ボルドー大学   |  |  |
| 会計   0 19 0 0 8 0  | 欧州  フランス  ホルドー大学   |  |
| **・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  | アジア インドネシア ボゴール高重大学  | ルギー科学研究科 欧州 フランス ポルドー大学  |
| 学研究科 アジア インドネシア ボゴール農業大学   | アジア インドネシア ボゴール最業大学  | ルギー科学研究科   欧州   フランス   ボルドー大学  |
| 子飲気料   | アンド イントネンド ホコール農業大学  | ルキー科子等文科   欧州   プランス   ホルトース子   0 19 0 0 8 0   |
| Nルギー科学研究科 欧州 フランス ポルドー大学   |  | 合計 0 19 0 0 8 0  |
| 会計 0 19 0 0 8 0  | 欧州   フランス   ホルドー大学   |  |
| M 81   0 15 0 0 0 0  | 欧州   フランス   ホルドー大学   0 19 0 0 9 0  | 1 2 21 21 21 21 21   |

35

37

34

# 

KU official Spring term: April 1 - September 30 (Class dates: April 8 - August 5

 Students are enrolled as full-time degree students at host university; MPH at KUSPH is 2 years but students will physically come to the KUSPH for only 1 year (2 semesters) from April until the following March **Graduation requirements** 

- Students are required to meet home and host institution's degree requirements; coursework, thesis, exam
- A maximum of 10 credits can be transferred from home university to KUSPH
  - Provided that courses are viewed equivalent by the relevant course instructor
  - Acknowledged by KUSPH Education Committee
  - Both Core or Elective classes
- A separate thesis must be submitted to each institution

36

#### Frequently asked questions

#### CLASSES at KUSPH

Classes are majorly in Japanese at KUSPH. 26 credits of coursework are required (see slide 11-12). The course instructor will provided English materials for international students to self-study. Some instructors may additionally offer English classes depending on the subject. Every year international students form a peerstudy group also. Generally, the students will be able to manage.

Frequently asked questions

#### Credit transfer

To reduce the students' workload, KUSPH accept 10 credits transferable from your home university. Provided that the courses are viewed comparable by the KUSPH course instructor and the Education Committee. Documents required are

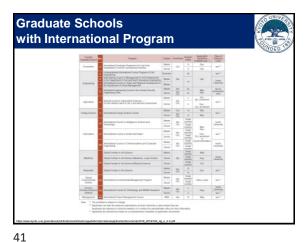
- 1. your official transcript from home university
- 2. the syllabus of that particular subject

38 39

#### Frequently asked questions

### **Credit transfer**

For example, if you have taken "Basic epidemiology" at your university and you feel that it is closely similar to our "Epidemiology 1" course, please bring your syllabus to KUSPH to apply for credit transfer. The committee will evaluate whether the courses are equivalent.



40